令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	明るく健康で、礼儀正しい生徒の育成 2 自分で目標を定め、目標の実現に向かって努力する生徒の育成 3 新しい時代を主体的に切り拓く、心豊かで、たくましい生徒の育成
(2) 現状と課題	学習習慣の欠如により、基礎学力が定着していない生徒や、基本的生活習慣が身についておらず、目的意識や進路意識も低い生徒が見られる。そこで、将来の自分の夢を持って真剣に進路を考え、学校生活を有意義に過ごすために、学習習慣と基本的生活習慣の確立に向けた指導を行うとともに、普通科においては特色ある教育活動の推進と食物調理科では資格取得を活かした進路活動の充実が課題である。
	I 魅力ある教育活動の推進
/0\ * + D	2 学習指導の充実
(3) 重点目標	3 キャリア教育と進路指導の充実
	4 生徒指導の充実
(4) 結果の公表	本報告書を学校ホームページに掲載するとともに、次年度のPTA総会で保護者に公表する。

学校整理番号	21			
学 校 名	青森県立百石高等学校			
課程	全日制の課程			
自己評価実施日	令和 6年 1月 29日(月)			
学校関係者評価実施日	令和 6年 2月 8日(木)			

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成 町教育長 | 名、社会福祉協議会会長 | 名、中学校関係者 | 名、町観光協会会長 | 名、町役場職員2名、前学校職員 | 名、本校後援会会長 | 名、前PTA役員 | 名

自己評価					学校関係者評価	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の 達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・ 要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	教育課程であるか。 ② 分掌・学年・教科間の縦横断的な情報共有や連携ができているか。 ③家庭・地域との連携ができたか。 ④ 学校運営協議会を開催し、社会に開かれた教育活動を実践できたか。	① 魅力ある教育活動を展開するために、創意工夫して教育課程を編成する。 ② 分掌・学年・教科間の縦横断的な情報共有や連携を図る。協働・協力して学校運営を行う。 ③ 家庭や地域社会との連携を大切にし、地域活動へ積極的に参加する。 ④ 学校運営協議会の意見等を取り込みながら、地域資源を有効的に活用し、社会に開かれた教育活動を実践する。	②分掌・学年・教科間での連携については、運営会議をできるだけ定期的に開催し、情報共有を図った。 ③地域の活動へ参加を促すために、ICT (Classi等)を活用できた。参加の呼びかけについては、概ね積極的にできた。 ④学校運営協議会をスタートし、地域の意見を伺う第 歩を踏み出すことができた。	А	・魅力ある教育活動のための教育課程の評価は、個々の生徒の進路希望をいかにかなえていけるかが最大のポイントであるとすれば、どのような力をつけたいかを個々の生徒から調査したうえで、つけたい力を伸ばす授業や、教育活動であるべきか、生徒からの意見も聴く必要がある。令和6年度入試倍率が低かったことが心配だ。・食調科の地域行事への参加や町広報をはじめ各種メディアへの情報発信を今後も積極的にしていただき、地元中学生の、一番身近にある進路の選択肢になるよう中学校にも働きかけでいただきたい。	・保護者への情報発信のみならず、外部を意識した HPへの情報発信を検討し、魅力ある教育課程を PRする。 ・学校運営協議会の体制づくりに引き続き努める。
2	実な習得させられたか。 ② 主体的・対話的・協働的に学習する態度を育成できたか。 ③ 一人ひとりの能力や適性に応じた指導と、学習習慣の育成に努め、生涯学習へつなげる教育が行えたか。 ④特別な支援や配慮を必要とする生徒	得を重視し、学習指導方法の工夫、研究に努める。 ② 学習環境を整え、体験活動や問題解決型の学習を通して、主体的・対話的・協働的に学習する態度を育成する。 ③ 一人ひとりの能力や適性を観察し、個に応じた指導と、学習習慣の育成に努め、生涯学習へつなげる教育を行う。	①②生徒が活動する授業の実践に努め、そのための研修(ファシリテーションについて・新課程における生徒の成長を促す評価について)を行うことができた。研修をふまえて生徒が活動を通して目標に到達するための授業実践がなされている。 ③④一人ひとりの適性に応じ、必要があれば、外部と連携しながら支援体制を整えてきた。ケース会議(2回)・SSWの派遣(9回)・SCの派遣(6回)とこまめに行った。それぞれの生徒が、自分のことを見つめ直し、自身のキャリアについて深く考えることができた。	Α	学習形態など方法論のみでなく、課題の在り方の 研究を進めて欲しい。	・3年間を見据え、系統立てたキャリア教育を教職員の共通理解のもと、実施できるよう見直し、検討を続けていきたい。 ・基礎的な知識及び技能の定着を図る授業と、主体性を育む授業のバランスをとりながら、授業の研修を計画する。 ・特別な支援や配慮を必要とする生徒に対する支援が、学習活動全体を通して行われることの共通理解と、学習の中での課題設定の在り方について、研修を進める。
	指導体制であったか。 ②主体的な進路選択ができるような実 践であったか。	を育成する。主体的に進路選択ができるよう指導する。 ③ 生徒や保護者に適切な進路情報を提供し、	①②キャリヤ教育の視点に立つために、総合的な探究の時間における、生徒の主体的な活動を支援することができた。体験することで、学んでもらおうと、アルバイトの規定を見直し、社会とつながるための活動を進めた。また、活動の後には振り返るためのレポートを書かせたが、体験が経験に深まるためには、、もう少し工夫が必要だ。今年度の国公立大学合格者は、1名である。 ③生徒や保護者に対して、求人企業の情報を定期的に公開できた。資格取得を目指し計画通り検定等実施した。来年度は合格率の向上を図っていきたい。	В	・職業観や勤労観を醸成することを、キャリア教育の根本に据えることはとても理解できる。 ・アルバイトを推奨していることに新鮮さを感じた。部活動の加入者が減っているという状況から、長期休業の過ごし方、社会性を身に付ける観点からも、いい取り組みだと感じる。 ・国公立大学合格者の輩出を目指すことは、百石高校存続のために必要であるので、継続して欲しい。課題は生徒自身の意欲をどのように育むかである。学校の中での進学に対するムードづくりやバランスにご配意をお願いしたい。	
	①生徒の人格の発達に寄与できたか。 ②生徒指導において、共通理解を図りながら協働できたか。		①一部ではあるが、生徒との距離感が異なる指導等があった。引き続き人権を尊重する立場を掲げていきたい。 ②生徒指導について、何のための指導であるかを確認しながら、校則の見直しも含め、協働できた。	В	当たって欲しい。校則の見直しを進めているとのことなので、ぜひ中学校にも情報をいただきたい。	・生徒指導において、なぜその指導が必要であるか、教員間での共通認識を、その都度確認しながら、進めていきたい。・生徒の、なぜそのような規則が必要なのかの視点を育てていくたの取り組みを行いたい。

(11) 総括

生徒の適性に応じ、必要があれば、外部と連携しながら丁寧に支援をしてきた。また、昨年度までの町との連携を発展させ、学校運営協議会がスタートできたことは大きな1歩であった。百石 高校の教育活動充実のため、意見を積極的に求め、町からの支援を得るための体制づくりが必要である。また、学校の取り組みをPRする姿勢を持たなければならない。